

吉田 基 様 (防災リーダーコース平成26年修了)

メッセージ -----

東日本大震災を仙台市で経験した私は、故郷の役に立とうと会社を辞め、復興まちづくりの仕事求めて岩手に戻ってまいりましたが、すぐに多面的な災害リスクについての知識が足りていないことに気づき、防災リーダー育成プログラムを履修することにしました。

復興まちづくりの仕事は時間に追われることが多く、また住民との話し合いも夜間に及ぶことも多かったため、三陸沿岸から深夜に盛岡に移動し、翌朝から講義を受けるというルーティンでしたが、同期の皆さんの真剣な姿に励まされ、なんとか最後まで続けることができました。

学んだことを現場に活かしていく日々でしたが、平地が少なく山に囲まれた三陸沿岸は、津波以外にもさまざまな災害リスクを抱えており、どこに公民館や広場、住宅団地をつくるべきか、道路をどのように通すべきか、災害と向き合いながらその街で生きていく人々とともに、何度も何度も話し合いながら各種の復興プランを練り上げました。

山に向かって走りやすい道路、川を横断せずに避難する避難経路など、復興まちづくりにも学んだことが活かされたように思います。

最近では、国土強靱化計画の策定支援も行っておりますが、これはまさに「災害が起こる前からの防災まちづくり」という考え方に基づいており、広大な県土を持つ岩手において郊外に拡散した都市域を維持し続けるのではなく、コンパクトに集約された安全な都市域を形成していくことが求められています。

これからも学んだことを活かしながら、コンパクトで快適な故郷のまちづくりに貢献していきたいと思えます。

不出来な生徒でしたが、最後まで丁寧に教えてくださった先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。

-----